

## 9 当用漢字音訓表

### ◎内閣訓令第二号

各 官 庁

#### 当用漢字音訓表の実施に関する件

さきに、政府は、現代国語を書きあらわすために日常使用する漢字の範囲を定め、昭和二十一年内閣告示第三十二号をもつて、当用漢字表を告示した。しかしながら、漢字を使用する上の複雑さは、その数の多いことによるばかりでなく、その読みかたの多様であることにもよるのであるから、当用漢字表制定の趣旨を徹底させるためには、さらに漢字の音訓を整理することが必要である。

よつて、政府は、今回国語審議会の決定した当用漢字音訓表を採択して、本日内閣告示第二号をもつて、これを告示した。今後、各官庁においては、つとめてこの表によつて漢字を使用するとともに、広く各方面に、当用漢字音訓表制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣 片 山 哲

### ◎内閣告示第二号

現代国語を書きあらわすために、日常使用する漢字の音訓の範囲を、おおむね次の表のように定める。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣 片 山 哲

長部	門部	阜部	佳部	雨部	青部	非部	面部	革部	音部	頁部	風部	飛部	食部	首部	馬部	骨部	高部	魚部	鳥部	鹵部
長	門開間閑	防限陞院除陸陽隊階際險	集雜難	雨雪雲電需	青靜	非	面	革	音	順預領頭題額顏願類	風	飛	食飲飯養余館	首	馬駿馱	體	高	魚	鳥鳴	塩

麥部	黃部	黑部	鼻部	齒部
麥	黃	黑点党	鼻	齒

老部	耒部	耳部	肉部	臣部	自部	至部	白部	舌部	舟部	艮部	色部	艸部	𠂔部	虫部	血部	行部	衣部	西部	見部	角部
老考者	耕	耳聖聞声職	肉肥育胃能脉腸	臣臨	自	至台	興旧	舌舍	航船	良	色	花芽苦英茶草荷菜万落葉著藏芸藥	処号	虫蚕	血衆	行術衛	衣表補製複	西要	見規視親覺錫	角解

言部	谷部	豆部	豕部	貝部	赤部	走部	足部	身部	車部	辛部	辰部	辵部	邑部	西部	禾部	里部	金部	
言計討訓記設許評詞試詩話認語誠誤	說課調談論諸講謝証識訊議護誦交	谷	象予	貝負財貧貨責貯貳貴買貸費質賀賃資	賞壳質贊	赤	走起	足路	身	車軍輕輪輸轉	弁辭	農	近返述迷追退送逆通速造連週進遊運	過道達遠適選遺辺	郡部都	配酒酸医	里重野量	金銀銅錄錢鏡鉄鉞

歹部	殳部	母部	比部	毛部	氏部	气部	水部	火部	爪部	父部	片部	牛部	犬部	玄部	玉部	生部	用部	田部
死殘	殺	母每毒	比	毛	氏民	氣	水永求池決汽河油治法波注泳洋活	溫滿漁演漠潔洛 火災炭無然照熱燃燈燒當	爭	父	版	牛牧物特	犬犯狀獨	率	玉王現球理	生產	用	田由申男町界畑留略番画異当

疋部	疒部	𠂔部	白部	皮部	皿部	目部	矢部	石部	示部	禾部	穴部	立部	竹部	米部	糸部	岳部	网部	羊部	羽部	
疑	病	登癸	白百的皇	皮	益盟	目直相省真眼	知短	石破研確	示社祖祝神稟祭禁福礼	私秋科秒移税程種称穀積	究空	立章童競	竹第筆等答策算管節築	米紛精	系紀約納純紙級素細終組結絕給統糸	緝經綠綿線編練具綫續續給統糸	欠	罪置	美着群義	習

大部	女部	子部	宀部	寸部	小部	尤部	尸部	山部	川部	工部	己部	巾部	干部	广部	殳部	弋部	弓部	彡部	彳部
大天太夫央失奮	女妹妻姉始委婦	子字存孝季孫学	守安完宗官定客宣室宮害家容宿寄富	寒察実写 寺專尊対導	小少	就	局居屈屋展属	山岩岸島	川州	工左差	己	市布希師席帳帶常	平年幸幹	序底店府度庫庭康広	延建	式	引弟弱張強	形	役往待律後徒得從復徳

心部	戈部	戶部	手部	支部	支部	文部	斗部	斤部	方部	日部	曰部	月部	木部	欠部	止部	
心必志忠快念思急性恩息悲情惡想意	愛感態慣憲庇 成我戰	戶所	手才打承技投折招拜拾持指授採接推 提損拳拏	支	収改放政故教救敗散敬敵數整	文	料	新斷	方旅族旗	日早明易星春昨昭是時昼景晴暑暗暴	曜	曲書最會	月有服望朝期	木未末本材村東板林果查柱校株根格 案条械森植業極榮構渠標樣橋機橫檢	權 次欲歌歛	止正步武歷歸

# 当用漢字別表

この表の漢字は、当用漢字表の中で、義務教育の期間に、読み書きともにできるように指導することが必要であると認めたものである。

一部	一丁七三上下不世
一部	中
ノ部	主
乙部	久乗
丁部	九
二部	事
二部	二五
一部	交京
人部	人仁今仕他付代令以件任休似位低住
人部	何仏作使来例供便係俗保信修倭倉個
几部	倍候借仮停健側備伝働像価億
入部	元兄先光児
入部	入内全両
八部	八公六共兵具典兼
冂部	再
彡部	冬冷
口部	出
刀部	刀分切刊列初判別利制刷券則前副創
力部	力功加助努効勇勉動務勝勞勢勸勸
勹部	包
匕部	化北
匚部	区
十部	十千午半卒協南博
尸部	印
尸部	厚原
人部	去参
又部	友反取受
口部	口古句可史右司各合同名后向君否告
口部	周味命和品員唱商問善喜単器嚴
囗部	四回因固国圀園円囷
土部	土在地坂均型基堂報場境墓増圧
土部	士壘
夕部	夕外多夜

## 8 当用漢字別表

### ◎内閣訓令第一号

各 官 庁

#### 当用漢字別表の実施に関する件

さきに、政府は、現代国語を書きあらわすために日常使用する漢字の範囲を定め、昭和二十一年内閣告示第三十二号をもつて、当用漢字表を告示した。しかしながら、これは、国民生活の上で漢字の制限が無理がなく行われることをめやすとしたものであつて、国民教育における漢字学習の負担を軽くし、教育内容の向上をはかるためには、わが国の青少年に対して義務教育の期間において読み書きともに必修せしめるべき漢字の範囲を定める必要がある。

よつて、政府は、今回国語審議会の決定した当用漢字別表を採択し、本日内閣告示第一号をもつて、これを告示した。今後、各官庁においては、この表を制定した趣旨を理解し、これに協力することを希望する。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣 片 山 哲

### ◎内閣告示第一号

当用漢字表の中で、義務教育の期間に、読み書きともにできるように指導すべき漢字の範囲を、次の表のように定める。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣 片 山 哲

- 第二 イ列長音は、イ列のかなに<sup>イ</sup>をつけて書く。
- 第三 ウ列長音は、ウ列のかなに<sup>ウ</sup>をつけて書く。
- 第四 エ列長音は、エ列のかなに<sup>エ</sup>をつけて書く。
- 第五 オ列長音は、オ列のかなに<sup>オ</sup>をつけて書くことを本則とする。
- 第六 ア列<sup>ヨウ</sup>拗音の長音は、ア列<sup>ヨウ</sup>拗音のかなに<sup>ア</sup>をつけて書く。
- 第七 ウ列<sup>ヨウ</sup>拗音の長音は、ウ列<sup>ヨウ</sup>拗音のかなに<sup>ウ</sup>をつけて書く。
- 第八 オ列<sup>ヨウ</sup>拗音の長音は、オ列<sup>ヨウ</sup>拗音のかなに<sup>オ</sup>をつけて書くことを本則とする。
- 第九 拗音<sup>ヨウ</sup>をあらわすには、や、ゆ、よを用い、なるべく右下に小さく書く。
- 第十 促音をあらわすには、っを用い、なるべく右下に小さく書く。



三、ひょうり(表裏) にひょう(二俵) とうひょう(投票) ひょう(豹) びやうをびやうと書くもの

びようぶ(屏風) びようき(病氣) びよう(餓) ×

四、べうをびようと書くもの

びようしゃ(描写) れいびよう(靈廟) ×

第三十二 ミヨの長音は、みようと書く。

例

一、みやうをみようと書くもの

みようにち(明日) じゅみよう(壽命) みようだい(名代) みようが(冥加) ×

二、めうをみようと書くもの

みようぎ(妙技) みようじ(苗字)

第三十三 リヨの長音は、りようと書く。

例

一、りやうをりようと書くもの

二、れうをりようと書くもの

ぜんりよう(善良) りようほう(兩方) りようど(領土) せいりよう(清涼) りようさつ(諒察) × ぶんりよう(分量) りようり(料理) しゅうりよう(終了) かんりよう(官僚) りよう(寮) せきりよう(寂寥) × ぶりよう(無聊) ×

三、れふをりようと書くもの

りよう(獵)

注意 一

「クワ・カ」「グワ・ガ」および「ヂ・ジ」「ヅ・ズ」をいい分けている地方に限り、これを書き分けてもさしつかえない。

注意 二

語例の下に示した漢字中、当用漢字表外のものには×印をつけた。また漢字の右側につけた片かなは旧かなづかいを示す。

〔備考〕

第一 ア列長音は、ア列のかなにあをつけて書く。

じょうず(上手) ジャウズ かんじょう(感情) カンジャウ

じょうたい(状態) ジャウタイ じょうほ(護歩) ジャウホ

じょうじゅ(成就) ジャウジュ じんじょう(尋常) ジンジャウ

五、ぢやうをじやうと書くもの

しじょう(市場) シジャウ れいじょう(令嬢) レイジャウ

じょうぶ(丈夫) ジャウブ じょうせき(定石) ジャウセキ

じょう(錠) ジャウ

六、ぜうをじやうと書くもの

じょうぜつ(饒舌) ジウゼツ そうじょう(騒擾) サウゼウ

七、でうをじやうと書くもの

さんじょう(三条) サンデウ

八、でふをじやうと書くもの

ろくじょう(六畳) ロクデフ いちじょう(一帖) イチデフ

第二十九 チョの長音は、ちやうと書く。

例

一、ちやうをちやうと書くもの

ちやうかい(町会) チャウクワイ ちやうたん(長短) チャウタン

ちやう(腸) チャウ ちやうしゅ(聴取) チャウシュ ちやう

ちん(提燈) チャウデン いっちやう(一挺) イツチャウ

二、てうをちやうと書くもの

ちやうでん(弔電) テウデン ちやうるい(鳥類) テウルルキ

ちやうしよく(朝食) テウシヨク ぜんちやう(前兆) ゼンテウ

ちやうし(調子) テウシ ちやうこく(彫刻) テウコク

三、てふをちやうと書くもの

ちやう(蝶) テフ つうちやう(通牒) ツウテフ

第三十 ニョの長音は、にやうと書く。

例

ねうをにやうと書くもの

にやう(尿) ネウ

第三十一 ヒョおよびビョの長音は、ひやう、びやうと書く。

例

一、ひやうをひやうと書くもの

ひやうばん(評判) ヒヤウバン ひやうそく(平仄) ヒヤウソク

たいひやう(大兵) タイヒヤウ

二、へうをひやうと書くもの

一、きやうをきょうと書くもの

きょうたん(驚嘆) キヤウタン ねっきょう(熱狂) ネツキヤウ  
きょうだい(兄弟) キヤウダイ きょうそう(競走) キヤウソウ  
きょうだい(鏡台) キヤウダイ きょうりよく(強力) キヤウリヨク  
とうきょう(東京) トウキョウ きょうもん(怪文) キヤウモン  
こきょう(故郷) コキヤウ きょうおう(響応) キヤウオウ

二、けうをきょうと書くもの

きょうごう(校合) ケウガフ きょういく(教育) ケウイク  
てっきょう(鉄橋) テツケウ きょうぼく(喬木) ケウボク

三、けふをきょうと書くもの

きょう(今日) ケフ きょうい(脅威) ケフキ きょうり  
よく(協力) ケフリヨク きょうき(俠氣) ケフキ

四、ぎやうをぎょうと書くもの

しゅぎょう(修行) シュギヤウ にんぎょう(人形) ニンギヤウ  
ぎょう(今晚) コンゲウ ぎょうしゅん(堯舜) ゲウシュン

六、げふをぎょうと書くもの

ぎょうむ(業務) ゲフム

第二十八

シヨおよびシヨの長音は、しょう、じょうと書く。

一、しやうをしょうと書くもの

しょうじき(正直) シヤウジキ しょうばい(商売) シヤウバイ  
しょうさい(詳細) シヤウサイ しょう(負傷) フシヤウ  
いっしょう(一生) イツシヤウ しょうか(唱歌) シヤウカ  
しょうらい(将来) シヤウライ ぶんしょう(文章) ブンシヤウ

二、せうをしょうと書くもの

まいりましょう(参りませう) マキ よいでし  
う(よいでせう)

しょうせつ(小説) セウセツ しょうねん(少年) セウネン  
しょうそく(消息) セウソク しょうしゅ(召集) セウシュ  
しょうだい(招待) セウダイ しょうめい(照明) セウメイ  
びしょう(微笑) ビセウ しょうしつ(焼失) セウシツ あん  
しょう(暗礁) アンセウ

三、せふをしょうと書くもの

こうしょう(交渉) カウセフ さいしょう(妻妾) サイセフ  
しょうけい(捷徑) セフケイ

四、じやうをじょうと書くもの

四、じゅうなん(柔軟) じゅうるい(獸類)  
 じふをじゅうと書くもの  
 じゅう(十) ぼくじゅう(墨汁)  
 じゅうき(什器)

五、ぢゅうをじゅうと書くもの

じゅうやく(重役) じゅうきよ(住居)  
 まんじゅう(饅頭)

第二十三 チュの長音は、ちゅうと書く。

例

ちゅうをちゅうと書くもの

はくちゅう(白昼) ちゅうぞう(铸造)  
 ちゅうたい(組帶) うちゅう(宇宙)  
 ちゅうしゅつ(抽出) せいちゅう(掣肘)

第二十四 ニュの長音は、にゅうと書く。

例

一、にゅうをにゅうと書くもの

にゅうわ(柔和)

二、にふをにゅうと書くもの

にゅうがく(入学)

第二十五 ヒュおよびビュの長音は、ひゅう、びゅうと書く。

例

一、ひゅうをひゅうと書くもの

ひゅうが(日向)

二、びゅうをびゅうと書くもの

ごびゅう(誤謬)

第二十六 リュの長音は、りゅうと書く。

例

一、りゅうをりゅうと書くもの

りゅうい(留意) せんりゅう(川柳)  
 りゅうこう(流行)

二、りふをりゅうと書くもの

こんりゅう(建立) いちりゅう(一粒)

第二十七 キョおよびギョの長音は、きょう、ぎょうと書く。

例

二、  
いのろう(祈<sup>イ</sup>らう) かえろう(帰<sup>カ</sup>らう)  
くろう(暗<sup>クラ</sup>う) かろう(辛<sup>カラ</sup>う) あろう(粗<sup>アラ</sup>う)  
ろうじん(老<sup>ラウ</sup>人) ろうどう(勞<sup>ラウドウ</sup>働) めいろ  
う(明<sup>メイ</sup>朗) ろうか(廊<sup>ラウカ</sup>下) たろう(太<sup>タ</sup>郎)

らふをろうと書くもの  
ろうそく(蠟<sup>ラウソク</sup>燭) × きゅうろう(旧<sup>キウ</sup>臘) ×

第二十一 キュおよびギユの長音は、きゅう、ぎゅうと書く。

例

一、きうをきゅうと書くもの

おおきゅう(大<sup>オホ</sup>きう)

きゅうよう(休<sup>キウ</sup>養) きゅうりよう(丘<sup>キウリョウ</sup>陵)

えいきゅう(永<sup>エイ</sup>久) ようきゅう(要<sup>エウ</sup>求)

きゅうてき(仇<sup>キウテキ</sup>敵) × きゅう(灸<sup>キウ</sup>) ×

二、きふをきゅうと書くもの

きゅうむ(急<sup>キフム</sup>務) きゅうだい(及<sup>キフダイ</sup>第) こ

きゅう(呼<sup>コ</sup>吸) かいきゅう(階<sup>カイ</sup>級) かん

きゅう(感<sup>カン</sup>泣) きゅうよ(給<sup>キフヨ</sup>与)

三、ぎうをぎゅうと書くもの

第二十二 シュおよびジュの長音は、しゅう、じゅうと書く。

例

一、しうをしゅうと書くもの

しゅうと(舅<sup>シウト</sup>) × しゅうとめ(姑<sup>シウトメ</sup>) ×

あたらしゅう(新<sup>アタラ</sup>しう) すずしゅう(涼<sup>スズ</sup>しう)

しゅうよう(修<sup>シウ</sup>養) しゅううん(舟<sup>シウウン</sup>運)

しゅうじん(囚<sup>シウジン</sup>人) ゆうしゅう(優<sup>ユウ</sup>秀)

しゅうぎよう(就<sup>シウゲイ</sup>業) しゅうにゅう(収<sup>シウニウ</sup>入)

しゅうき(臭<sup>シウキ</sup>気) ばんしゅう(晩<sup>バン</sup>秋)

きゅうしゅう(九<sup>キウ</sup>州) しゅうちよう(酋<sup>シウチョウ</sup>長)

しゅうい(周<sup>シウイ</sup>囲) × こんしゅう(今<sup>コン</sup>週) ×

二、しふをしゅうと書くもの

しゅうとく(拾<sup>シフトク</sup>得) しゅうちやく(執<sup>シフチヤク</sup>着)

しゅうちゅう(集<sup>シフチュウ</sup>中) しゅうめい(襲<sup>シフメイ</sup>名)

れんしゅう(練<sup>レン</sup>習) × へんしゅう(編<sup>ヘン</sup>輯) ×

三、じうをじゅうと書くもの

三、ばうをほうと書くもの

はっほう(八方)

四、ばふ(またはばふ)をほうと書くもの

りっほう(立法) せっほう(説法)

五、ばうをほうと書くもの

あそほう(遊ぼう) とほう(飛ぼう)

はこほう(運び)

ほうどう(暴動) ほうけん(冒險) ぼうず

(坊主) しょうほう(書房) めっほう(滅亡)

きほう(希望) ぼうちよう(膨脹)

六、ばふ(またはばふ)をほうと書くもの

びんほう(貧乏)

第十八 モの長音は、もうと書く。

例

まうをもうと書くもの

もうける(儲ける) もうす(申す)

やすもう(休まう) たのもう(頼まう)

あもう(甘う) せもう(狭う)

もうはつ(毛髪) もうどう(妄動) もうも

第十九 ヨの長音は、ようと書く。

例

一、やうをようと書くもの

ようか(八日)

はよう(早う)

ようやく(漸く)

ようもう(羊毛) かいよう(海洋) ようし

き(様式) たいよう(太陽) ようりゅう

(楊柳)

二、えうをようと書くもの

ようりよう(要領) にちよう(日曜)

ようはい(遙拝) ようきよく(謡曲)

ようねん(幼年) ようせつ(夭折)

三、えふをようと書くもの

こうよう(紅葉)

第二十 ロの長音は、ろうと書く。

例

一、らうをろうと書くもの

とうげ(峠) たとうがみ(畳紙) うとう  
(打たう) かとう(勝たう) たとう(立た  
う)

いとう(痛う) かとう(堅う)

とうけん(刀剣) どうしょ(島嶼) とうぼ

つ(討伐) どうぞく(盗賊) さとう(砂糖)

とうぜん(当然) ねっとう(熱湯) おう

とう(桜桃) とうき(陶器) きとう(祈禱)

ついう(追悼)

二、たふをとう書くもの

とうべん(答弁) とう(塔) とうは(踏破)

すいう(出納)

三、だうをどうと書くもの

どうろ(道路) こうどう(講堂) かいどう

(海棠) ぶどう(葡萄)

第十六 ノの長音は、のうと書く。

例

一、なうをのうと書くもの

しのう(死なう)

あぶのう(あぶなう)  
だいのう(大脳) くのう(苦惱) のうち  
う(囊中)

二、なふをのうと書くもの

のうにゅう(納入)

三、のふをのうと書くもの

きのう(昨日)

第十七 ホおよびボ、ボの長音は、ほう、ぼう、ぽうと書く。

と書く。

例

一、ほうをほうと書くもの

ほうき(箒) ほうむる(葬る)

ほうこく(報告) ほうか(邦家) こくほう

(国宝) ほうさく(方策) ほうかつ(包括)

ほうび(褒美)

二、はふ(またはほふ)をほうと書くもの

ほうる(投る)

ほうりつ(法律) ほうし(法師)

五、がうをこうと書くもの

いそこう(急がう)

なごう(長う)

ばんこう(番号)

ごういん(強引)

ごうぜん(傲然)

六、ぐわうをこうと書くもの

ごうごう(轟々)

七、がふをこうと書くもの

いちこう(一合)

八、ごふをこうと書くもの

えいこう(永劫) ざいこう(罪業)

第十四 ソおよびゾの長音は、そう、ぞうと書く。

例

一、さうをそうと書くもの

はなそう(話さう) かえそう(返さう)

ちらそう(散らさう)

あそう(浅う)

そう(然う)

そうじ(掃除)

爪牙

そうこ(倉庫)

ねん(壮年)

草木

そうしつ(喪失)

さふをそうと書くもの

そうろう(候ふ)

そうわ(挿話)

三、ざうをぞうと書くもの

せいぞう(製造) ぞうしよ(蔵書)

ぞう(象) しょうぞう(肖像)

四、ざふをぞうと書くもの

ぞうきん(雑巾)

第十五 トおよびドの長音は、とう、どうと書く。

例

一、たうをとうと書くもの



二、わうをおうと書くもの

よおう(弱う)

おうらい(往来) こくおう(国王)

おうせい(旺盛) おうじ(皇子)

おうごん(黄金) おうし(横死)

三、あふをおうと書くもの

おうぎ(扇) おうみ(近江)

おうとつ(凹凸) おうなつ(押捺)

おうりよくこう(鴨緑江)

四、はうをおうと書くもの

あおう(逢はう) かおう(買はう)

まおう(舞はう)

こおう(強う)

第十三 ヨおよびゴの長音は、こう、ごうと書く。

例

一、かうをこうと書くもの

こうじ(麴) こうがい(筭) こうべ(神戸)

さこう(咲かう) きこう(聞かう) こうば

しい(かうばしい)

あこう(赤う) ちこう(近う) こう(斯う)

こうりん(好運) こうりょ(考慮) ほうこ

う(方向) しゅこう(酒肴) こうすい(香

水) こうぎ(講義) こうざん(高山) こう

かい(航海) こうふく(幸福) こうか(効果)

こうつう(交通) こうふく(降伏) こうふ

う(校風) こうい(行為) けんこう(健康)

二、くわうをこうと書くもの

こうせん(光線) こうだい(宏大) こう

きょう(広狭) こうしよく(黄色) こう

ぞく(皇族) こうてん(荒天)

三、かふをこうと書くもの

こうおつ 甲乙(太閤)

こうかく(岬角)

四、こふをこうと書くもの

こう(劫)

第九

オに発音されるのは、おと書く。

例

かえる(帰る) さえずる(轉る)  
 すくえ(救へ) ひろえ(拾へ)  
 さえ(助詞さへ)

いきおい(勢) かお(顔) しお(塩)  
 におい(匂) おお(かみ) 狼 おお(やけ)  
 (公) こおり(氷) こおろぎ(蟋蟀)

ほお(ずき) 酸漿 ほお(頬) ほお(のき) 朴  
 木 もよおし(催し) なお(す) 直す し

おお(せる) 為(遂) せるとどこおる(滞る)  
 とおる(通る)

おおい(多い) おお(きい) 大きい とおい  
 (遠い) なお(猶)

第十

エの長音は、ゆうと書く。

例

一、いうをゆうと書くもの

ゆう(じん) 友人 ゆう(げん) 幽玄  
 ゆう(びん) 郵便 ゆう(わく) 誘惑  
 りゆう(理由) しょう(所有)  
 ゆう(ぎ) 遊戯 ゆう(ぜん) 悠然  
 ゆう(りょ) 憂慮

二

いふをゆうと書くもの  
 とゆう(都邑)

三

ゆふをゆうと書くもの  
 ゆう(がた) 夕方

第十一

エ列長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

例

ねえ(さん) 姉さん ええ(応答の語)

第十二

オの長音は、おうと書く。

例

一、あうをおうと書くもの。  
 おう(か) 桜花 ちゅう(おう) 中央  
 おう(む) 鸚鵡 おう(う) 奥羽

第五

イに発音されるひは、いと書く。

例

かわら(瓦) × かわ(河) にわ(庭)  
 あらわす(著す) × まわる(廻る) ×  
 こわれる(毀れる) ×  
 あらわない(洗はない) × あつかわない(扱はない) ×  
 うたわらない(歌はない) ×  
 けわしい(険しい) × にわか(俄かに) ×  
 すなわち(即ち) ×  
 びわ(琵琶) × びわ(枇杷) ×  
 うぐいす(鶯) × たい(鯛) × はい(灰)  
 いいわけ(言訳) ×  
 ついやす(費す) × たいらげる(平げる) ×  
 ならいます(習ひます) × おもいます(思ひます) ×  
 ちいさい(小さい) × こいしい(恋しい) ×

第六

ウに発音されるふは、うと書く。

例

ついに(遂に)  
 あらう(洗ふ) × まう(舞ふ) × あう(合ふ) ×  
 かう(買ふ) × うたう(歌ふ) × しなう(攪ふ) ×  
 いう(言ふ) × くう(食ふ) × すう(吸ふ) ×  
 ぬう(縫ふ) × ゆう(結ふ) × くるう(狂ふ) ×  
 あらそう(争ふ) × うけおう(請負ふ) ×  
 おもう(思ふ) × あやうい(危い) ×

第七

オに発音されるふは、おと書く。

例

あおい(葵) ×  
 あおぐ(仰ぐ) × あおる(煽る) × たおす(倒す) ×  
 へは、へと書くことを本則とする。

例

かえる(蛙) × いえ(家) × まえ(前) × かん  
 がえ(考) ×

と書く。

例

はなぢ(鼻血) もらいぢぢ(もらひ乳)  
 ひぢりめん(緋縮緬) × ちかぢか(近々) ×  
 みそづけ(味噌漬) × みかづき(三日月) ×  
 ひきづな(引綱) × つねづね(常々)  
 いれぢえ(入智慧) × ちゃのみぢゃわん(茶飲茶碗) ×

(2) 同音の連呼によって生じたぢ、づは、ぢ、づと書く。

例

ちぢみ(縮み) ちぢむ(縮む)  
 つづみ(鼓) × つづら(葛籠) ×  
 つづく(続く) × つづる(綴る) ×

第四 ワに発音されるはは、わと書く。たゞし助詞のはは、はと書くことを本則とする。

例

二、づをずと書くもの

あじ(味) × ふじ(藤) × わらじ(草鞋) ×  
 ねじる(捻ぢる) × はじる(恥ぢる)  
 よじる(攀ぢる) ×  
 じぞく(持統) × じ(痔)  
 じく(軸) × じんち(陣地) ×  
 じょせい(女性) × さくじょ(削除)  
 うずら(鶉) × うず(渦) × みず(水)  
 ゆずる(譲る) × うずめる(埋める)  
 さずける(授ける) ×  
 めずらしい(珍らしい) × はずかしい(恥かしい)  
 しずかに(静かに) × まず(先づ)  
 だいず(大豆) × ずじょう(頭上)  
 さんずのかわ(三途の川) × ずが(図画)

たゞし

(1) 二語の連合によって生じたぢ、づは、ぢ、づ

けんえん(犬猿) × いちえん(一円)  
 ぎょえん(御苑) × えんさ(怨嗟) × えんじょ  
 (援助) えんざい(冤罪) ×

三、ををおと書くもの

おけ(桶) × おか(岡) × うお(魚) とお(十)  
 おどる(踊る) × おしえる(教へる)  
 しおれる(萎れる) ×  
 おしい(惜しい) × おかしい(をかしい)  
 あおい(青い) ×  
 おめい(汚名) × おかん(悪寒)  
 ろうおう(老翁)  
 かおく(家屋)  
 おんど(温度) × へいおん(平穩) ×  
 (久遠) × おんりょう(怨靈)  
 (久遠) ×

第二 くわ、ぐわはか、がと書く。

例

一、くわをかと書くもの

第三 ち、づはじ、ずと書く。

例

一、ちをじと書くもの

二、ぐわをがと書くもの

かがく(化学) かへい(貨幣) かふん(花)  
 けつ(結果) かし(菓子) かこ(過)  
 かがく(科学) かじ(火事) かもく  
 (課目) かいぎ(会議) かいが(絵画)  
 こうかい(後悔) かい(破壊) かいすう  
 (回数) きかい(奇怪) ゆかい(愉快)  
 かくとく(獲得) かくだい(拡大)  
 かつどう(活動) こうかつ(狡猾)  
 かんげい(歓迎) かんり(官吏) きかん  
 (帰還) いっかん(一貫)  
 がれき(瓦礫) がしょう(臥床)  
 がいこく(外国) ×  
 いちがつ(一月) ×  
 がんり(元利) がんやく(丸薬) こんが  
 ん(懇願)

第一　ゐ、ゑ、をはい、え、おと書く。たゞし助詞の  
をを除く。

一、ゐをいと書くもの

いど(井戸) キド  
いのしし(猪) オノシシ  
くわい(慈) クラ

姑キ  
あい  
藍アキ

まいる(参る)<sup>マヰル</sup> いる(居る)<sup>イル</sup>

いびょう(胃病) キビヤウ  
けんい(権威) ケンキ

リ ヨ オ	ミ ヨ オ	ビ ヨ オ	ヒ ヨ オ	ニ ヨ オ	チ ヨ オ	シ ヨ オ	ギ ヨ オ	キ ヨ オ	發音
り よ う	み よ う	び よ う	ひ よ う	に よ う	ち よ う	じ よ う	ぎ よ う	き よ う	新づ か い な
り や う、 れ う、 れ ふ	み や う、 め う、	び や う、 べ う、	ひ や う、 へ う、	ね う、	ち や う、 て う、 て ふ	じ や う、 で う、 ぢ や う、 ぜ う、	ぎ や う、 せ う、 せ ふ、	き や う、 け う、 げ う、 け ふ	備考 (旧 か な づ か い を 示 す)

二、名をえと書くもの

こえ(声)<sup>コエ</sup>  
つえ(杖)<sup>ツエ</sup>  
すえ(末)<sup>スエ</sup>

うえる(植ゑる)　すえる(据ゑる)

えとく(会得) エトク  
ちえ(智慧) チエ  
えこう(回向) エカウ

このえ(近衛)<sup>コエ</sup>

ちょうえつ(超越<sup>テウエツ</sup>)

えんきんエンキン（遠近）  
こうえんコウエン（公園）

いち(位置) いさん(遺産) いにん(委任)

たいい(大尉)

くいき(区域)シ

しよくいん(職員)　びよういん(病院)

すいどろ(水道) スイドウ  
すいさつ(淮祭) スイサツ  
すいじ

（炊事） すいじやく（衰弱）

ズイぶん(随分)

いっつい（イツツキ）

ゆいどん(遺言)

しんるい(親類)

である。

- 一、このかなづかいは、主として現代文のうち口語体のものに適用する。
- 一、原文のかなづかいによる必要のあるもの、またはこれを変更しがたいものは除く。

一

発音	オエオウイワズジガカオエイ
新かな	おえおういわずじがかおえい
備考 (旧かなづか) いをか	ほへふふひはづぢぐくをゑゐ わわ

二

発音	コオユ オオウ
新かな	こおゆう おう
備考 (旧かなづか) いをか	かう、い、 くわ、いふ、 くわ、あふ、 かう、かふ、 こふ

三

発音	ロヨモボボホノドトゾソゴ オオオオオオオオオオオ
新かな	ろよもほほほのどとぞそご ろうろうろうろうろう
備考 (旧かなづか) いをか	らう、やまばばはなだたざさが う、う、う、う、う、う、う、 らう、えう、ぼふ、はふ、たふ、さふ、 えふ、ぼふ、ほふ、のふ、がう、 えふ、ぼふ、ほふ、のふ、がふ、ごふ

発音	リビヒニチジシギキ ユユユユユユユユ ウウウウウウウウ
新かな	りびひにちじしぎき りゅうりゅうりゅうりゅうりゅうりゅう うううううううう
備考 (旧かなづか) いをか	りう、りふ、 う、う、 にう、にふ、 ちう、ちふ、 じう、じふ、 しう、しふ、 ぎう、きふ、 きう、きふ、 ぢゆう

一  
一

## 7 現代かなづかい

◎内閣訓令第八号

各 官 庁

## 「現代かなづかい」の実施に関する件

国語を書きあらわす上に、従来のかなづかいは、はなはだ複雑であつて、使用上の困難が大きい。これを現代語音にもとづいて整理することは、教育上の負担を軽くするばかりでなく、国民の生活能率をあげ、文化水準を高める上に、資するところが大きい。それ故に、政府は、今回国語審議会の決定した現代かなづかいを採択して、本日内閣告示第三十三号をもつて、これを告示した。今後各官庁においては、このかなづかいを使用するとともに、広く各方面にこの使用を勧めて、現代かなづかい制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉 田 茂

## ◎内閣告示第三十三号

現代国語の口語文を書きあらわすかなづかいを、次のように定める。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉 田 茂

## 現代かなづかい

まえがき

一、このかなづかいは、大体、現代語音にもとづいて、現代語をかなで書きあらわす場合の準則を示したもの



# 簡易字体

三画 万  
 四画 区 円 欠 双 予  
 五画 台 亨 旧 号 弁 処 圧  
 六画 会 礼 当 糸 虫 辺 弋 仮 兩  
 七画 乱 余 勵 尅 対 沢 声 医 麦 困 勞 体 囟  
 八画 併 毆 学 実 宝 岳 担 画 並 徑 枢 欧 参 拡 炬 拠 屈  
 九画 浅 癸 独 研 窃 胆 変 点 莖 榮  
 十画 剗 恋 帰 残 浜 称 蚕 拳 悩 覚

十一画 断 渚 沢 沢 斎 腦 經 肅 滙 飢 慘  
 十二画 滿 属 糜 灣 蛭 蛭 齒 輕 宮 覺 証 絵 墮  
 十三画 勸 数 滝 献 繼 統 豐 踐 辭 遲 鉄 随 触 嘗 鉉 塩 櫻  
 十四画 駟 馱 関 錢 詭 総 隠  
 十五画 囑 權 欲 靈 贅 潜  
 十六画 穩  
 十七画 齡 穢  
 十八画 觀  
 二十画 髓

(計 一三一字)





立部	穴部	禾部	示部	石部	矢部	矛部	目部	皿部	皮部	白部	火部	广部	疋部	田部	用部	生部	甘部	玉部	
立並章童端競	穴究空突窠窳窮窳窳	積穗穩稷	秀私秋科秒租秩移稅程稚種稱稻稿穀	示杜祈祉秘祖祝神祥票祭禁禍福禪礼	石砂砲破研硝硫硬碁砗碑確磁礮礎	矢知短	矛	目盲直相盾省看真眠眼睡督瞬	盆益盛盜盟尽監盤	皮	白百的皆皇	疫疲疾病症痘痛痢痲療癰	疎疑	当量	田由甲申男町界畑畔留畜畝略番圃異	用	生	甘	玉王珍珠斑瓊球璣琴環璽

竹部	米部	糸部	缶部	罒部	羊部	羽部	老部	而部	耒部	耳部	聿部	肉部	臣部	自部						
竹笑笛符第筆等筋筒答策箇算管箱節	範築篤簡簿籍	米粉粒粗粘粧粹精糖糧	系糾紀約紅紋納純紙級紛素紡索紫累	細紳紹紺終組結絕絞絡給統糸絹經綠	維綱網綿緊緒線締緣編緩緯練縛果縫	縮縱總續繁織繕綵繭縲繼統織	欠	罪置罰署罷	羊美薈群義	羽翕翌習翼	老考者	耐	耕耗	耳聖聞声職聰	肅	肉肖肝肥肩肪肯育肺胃背胎胞胴胸能	脂脅脈脚脱脹腐腕腦腰腸腹膚膜膨胆	臟	臣臨	自臭

支部	支部	文部	斗部	斤部	方部	无部	日部	日部	月部	木部	欠部	止部
攢	攢	文	斗	斤	方	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日	月	木	欠	止
攢	攢	攢	攢	攢	攢	既	日	日</				

玄部	犬部	牛部	片部	父部	爪部	火部				水部	气部	氏部	毛部	比部	母部	殳部	歹部
玄	犬	牛	片	父	争	火	潜	溶	活	治	水	气	氏	比	母	殳	歹
率	犯	牧	版	父	為	灰	潤	滅	派	沼	永	氏	氏	比	每	殺	殉
	狀	物			爵	災	潮	滋	流	沿	求	民	民		毒	殿	殊
	狂	牲				炊	汶	滑	浦	況	汗					毆	殖
	狩	特				炎	澄	滯	浪	泉	污						殘
	狹	犧				炭	沢	滴	浮	泊	江						
	猛					烈	澌	滿	浴	泌	池						
	猶					無	濁	漁	海	法	決						
	獄					焦	濃	漂	浸	波	汽						
	獨					然	湿	漆	消	泣	沈						
	獲					煮	瀝	漏	涉	注	沒						
	獼					煙	瀝	演	液	泰	沖						
	猓					照	浜	漢	涼	泳	河						
	猓					煩	瀨	漫	淑	洋	沸						
	猓					熱	瀨	漸	淚	洗	油						
	猓					熱	瀨	潔	淡	津							

干部	千	平	年	幸	幹	玄部	幻	幼	幽	幾	广部	床	序	底	店	府	慶	座	庫	庭	庶	康	庸	廉	廊	廐	庑										
弓部	弓	引	弟	弦	弧	弱	張	強	彈	彡部	形	彩	彫	彰	影	彡部	役	彼	往	征	待	律	後	徐	徑	徒	得	從	御	復	循	徵					
彡部	徵	德	微	心部	心	必	忌	忍	志	忘	忙	忠	快	念	怒	怖	思	怠	急	性	彡部	怪	恒	恐	恥	恨	恩	恭	息	悅	悔	悟	患	悲	悼	情	惑
彡部	惜	惠	惠	情	惱	想	愁	愉	意	愚	愛	感	憤	慈	慚	慚	慚	慚	慚	慚	彡部	慕	慘	慢	慣	慨	慮	慰	慶	憂	憎	憤	憩	憲	憶	憾	懇
彡部	成	我	戒	戰	戲	戈部	成	我	戒	戰	戲	戶部	戶	房	所	扇	手	手	才	打	扱	扶	批	承	披	抄	抑	投	抗	折	抱	抵	押				
手	捕	擒	掃	授	掌	排	掘	擲	採	探	探	接	控	推	措	描	提																				

一部	一丁七丈三上下不且世丘丙	一部	凶出
一部	中	刀部	刀刃分切刈刊刑列初判別利到制刷券
一部	丸丹主	力部	刺刻則削前剖剛剗割創劇剗劍
一部	久乏乘	募勢勤勲勵勳	力功加劣助努効効勳勇勉勳勳務勝勞
一部	乙九乳乾乱	勺部	勺勺包
一部	了事	匕部	化北
一部	二互五井亟	匕部	匠
一部	亡交享京	匕部	匹匿区
一部	人仁今介仕他付代令以仰仲件任企伏	匕部	十千升午半卑卒卓協南博
一部	伐休伯伴伸伺似但位低住佐何佻作佳	匕部	占
一部	使来例侍供依侮侯侵便係促俊俗保信	匕部	印危却卵卷卸卸
一部	修俳倭併倉個倍倒候借倣值倫飯俸偏	匕部	厘厚原
一部	停健側偶傍傑備催佗債傷傾勳像僚偽	匕部	去參
一部	僧伽儀億儉儒償優	匕部	又及友反叔取受
一部	元兄充兆先光克免兒	匕部	口古句叫召可吏右司各合吉同名后吏
一部	入内全兩	匕部	吐向君吟否含呈吳吸吹告周味呼命和
一部	八公六共兵具典兼	匕部	咲哀品員哲唆唐唯唱商問啓善喚喜喪
一部	冊再冒	匕部	喫單嗣嘆器噴嚇嚴囑
一部	冗冠	匕部	囚四回因困固圉國園圓罔囡囹
一部	冬冷准凍癢	匕部	土在地坂均坊坑坪垂型埋城域執培基
一部	凡	匕部	

## 当用漢字表

まえがき

一、この表は、法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したものである。

二、この表は、今日の国民生活の上で、漢字の制限があまり無理がなく行われることをめやすとして選んだものである。

一、固有名詞については、法規上その他に關係するところが大きいので、別に考えることとした。

一、簡易字体については、現在慣用されているものの中から採用し、これを本体として、参考のため原字をその下に掲げた。

一、字体と音訓との整理については、調査中である。

### 使用上の注意事項

イ、この表の漢字で書きあらわせないことばは、別のことばにかえるか、または、かな書きにする。

ロ、代名詞・副詞・接統詞・感動詞・助動詞・助詞は、なるべくかな書きにする。

ハ、外国（中華民国を除く）の地名・人名は、かな書きにする。

ただし、「米国」「英米」等の用例は、従来の慣習に従つてもさしつかえない。

ニ、外来語は、かな書きにする。

ホ、動植物の名称は、かな書きにする。

ヘ、あて字は、かな書きにする。

ト、ふりがなは、原則として使わない。

チ、専門用語については、この表を基準として、整理することが望ましい。



## 6 当用漢字表

◎内閣訓令第七号

各官庁

### 当用漢字表の実施に関する件

従来、わが国において用いられる漢字は、その数がはなはだ多く、その用いかたも複雑であるために、教育上また社会生活上、多くの不便があつた。これを制限することは、国民の生活能率をあげ、文化水準を高める上に、資するところが少くない。

それ故に、政府は、今回国語審議会の決定した当用漢字表を採択して、本日内閣告示第三十二号をもつて、これを告示した。今後各官庁においては、この表によつて漢字を使用するにとともに、広く各方面にこの使用を勧めて、当用漢字表制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉田 茂

◎内閣告示第三十二号

現代国語を書きあらわすために、日常使用する漢字の範囲を、次の表のように定める。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉田 茂

〔注意〕

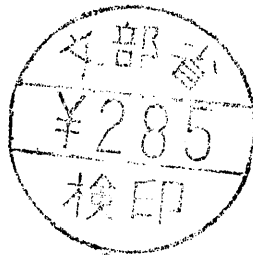
当用漢字表・同別表・同音訓表は、当用漢字字体表よりも前に公布されたので、旧字体の漢字で発表（簡易字体一三一字を含む。九ページ参照。）された。この本を編集印刷するにあたって、その後公布された当用漢字字体表によって、全部新字体の活字を使用した。

6	当用漢字表	(昭和二一、一一、一六 内閣訓令第七号、 内閣告示第三二号)	一
7	現代かなづかい	(昭和二一、一一、一六 内閣訓令第八号、 内閣告示第三三号)	一〇
8	当用漢字別表	(昭和二三、二、一六 内閣訓令第一号、 内閣告示第一号)	二七
9	当用漢字音訓表	(昭和二三、二、一六 内閣訓令第二号、 内閣告示第二号)	三三
10	当用漢字字体表	(昭和二四、四、二八 内閣訓令第一号、 内閣告示第一号)	八三
11	人名用漢字別表	(昭和二六、五、二五 内閣訓令第一号、 内閣告示第一号)	八七
12	ローマ字のつづり方	(昭和二九、一二、九 内閣訓令第一号、 内閣告示第一号)	八九
13	送りがなのつけ方	(昭和三四、七、二 内閣訓令第一号、 内閣告示第一号)	九三

国語シリーズ No. 21

# 公用文の書き方

——資料集——



MEJ 4062

昭和39年8月1日 印刷〔三訂〕

昭和39年8月5日 九版発行

著作権所有

文 部 省

東京都文京区関口水道町41

発 行 者

青 木 参 平

名古屋市昭和区白金町2の8

印 刷 者

竹田印刷株式会社

代表者 竹 田 光 二

発 行 所

光風出版株式会社

東京都文京区関口水道町41

電話(269)1898・振替東京162599

名古屋市昭和区白金町2の8

電話(88)2580・振替名古屋38253

定 価 285 円